

作成日：2006年7月1日

改訂日：2018年6月20日

安全データシート（SDS）

1. 化学品及び会社情報

製品名 USプライマーM2

会社名 日新工業株式会社

住所 〒120-0025 東京都足立区千住東2丁目23番4号

担当部門 技術部

電話番号 048-755-6188 FAX 番号 048-755-6177

緊急連絡先 03-3882-2613 営業総務課

奨励用途及び使用上の制限 工業用（建築用塗材 等）

整理番号 NU-Q017

2. 危険有害性の要約

重要な兆候及び想定される非常事態の概要

最重要危険有害性：

有害性： 蒸気は目、鼻、咽喉を刺激する。吸引すると麻酔作用がある。

物理的及び化学的危険性：

引火しやすい液体。

消防法危険物第4類第1石油類。

特定の危険有害性： 溶剤の蒸気と空気が混合して爆発性混合物を形成しやすい。

分類の名称（分類基準は日本方式）：引火性液体類。

GHS分類

引火性液体	区分2	標的臓器／全身毒性(単回暴露)	
急性毒性 経口	区分外	呼吸器、中枢神経系	区分1
急性毒性 経皮	区分外	麻酔作用	区分3
急性毒性 吸入	区分外	水生環境有害性(急性)	区分外
皮膚腐食性/刺激性	区分外	水生環境有害性(長期間)	区分外
眼損傷/刺激性	区分2B		

※ 記載のないものは分類対象外または分類できない。

GHSラベル要素



注意喚起語：危険

危険有害性情報

- ・ 引火性の高い液体及び蒸気
- ・ 眼への刺激
- ・ 臓器（呼吸器・中枢神経系）の障害
- ・ 眠気やめまいのおそれ

注意書き

＜安全対策＞

- ・ 熱、火花、裸火、高温の着火元になるものから遠ざけること
- ・ 保護手袋及び保護眼鏡・保護面を着用すること
- ・ 防爆型の機器を使用すること
- ・ 静電気放電に対する予防措置を講ずること
- ・ 火花を発生させない工具を使用すること
- ・ この製品を使用する時に飲食または喫煙をしないこと
- ・ 取扱い後、よく手を洗うこと
- ・ ミスト・蒸気等の吸入を避けること

＜救急処置＞

- ・ 火災の場合には消火に適切な手段を使用すること
- ・ 皮膚にかかった場合、直ちに汚染された衣服を脱ぎ、流水で洗うこと
- ・ 眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること
- ・ 眼の刺激が続く場合は、医師の診断/手当を受けること
- ・ 暴露した場合、または気分が悪いときは医師に連絡すること
- ・ 吸入した場合、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること

＜保管＞

- ・ 施錠して保管すること
- ・ 容器は密閉して換気の良い場所で保管すること

＜廃棄＞

- ・ 内容物・容器は自治体の規則に従って廃棄すること

3. 組成及び成分情報

単一製品・混合物の区別

製品は混合物

化学名

NCO 基末端ウレタンプレポリマー

一般名

ウレタン樹脂プライマー

成分	含有量 (%)	化学式	官報公示整理番号 (化審法・安衛法)	CAS No.
ウレタンプレポリマー	30~40	—	(7)-820	—
酢酸エチル	50~60	CH ₃ COOC ₂ H ₅	(2)-726	141-78-6
酢酸ブチル	0~10	CH ₃ COOC ₄ H ₉	(2)-731	123-86-4
イソホロンジイソシアネート (IPDI) *	未反応分	C ₁₂ H ₁₈ N ₂ O ₂	(3)-2492	4098-71-9

＊この製品に含有しているイソホロンジイソシアネート(IPDI)は、製造過程に由来する不純物のため、この製品は毒物に該当しません

4. 応急措置

吸入した場合：

- 被災者を直ちに空気の新鮮な場所に移動し保温、安静に努め、速やかに医師の診断を受ける。

皮膚に付着した場合：

- 汚れた衣服を脱ぎ、多量の水で洗い流す。皮膚に炎症を生じた時は、医師の診断を受ける。

目に入った場合：

- コンタクトレンズを使用している場合は固着していない限り、取り除いて直ちに清浄な水で15分以上洗眼し、眼科医の診断を受ける。

飲み込んだ場合：

- 水で口の中を洗浄にし、直ちに医師の診断を受ける。

5. 火災時の措置

消火剤： 粉末消火器、炭酸ガス消火器、泡消火器、乾燥砂が有効である。

使ってはならない消火剤：水

特定の消火方法： 可燃性のものを周囲から、速やかに取り除くこと。

消火を行う者の保護： 適切な保護具(耐熱着衣等)を使用し風上から消火する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項： 作業の際には適切な保護具（ゴム又はプラスチック手袋、呼吸器用保護具、エプロン、ゴーグル等）を着用する。

環境に対する注意事項： 河川等へ排出され、環境へ影響を起こすことがないように注意する。

除去方法： 乾燥砂、土、その他の不燃性のものに吸収させて回収する。大量流出の際には、盛り土で囲って流出を防止する。流出物はスコップなどで密閉出来る容器に回収し、安全な場所に移す。

二次災害の防止策： 付近の着火源となるものを速やかに除くとともに消火剤を準備する。付着物、廃棄物などは、関係法規に基づいて処理をすること。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い：

技術的対策 換気の良い場所で取り扱う。容器はその都度密栓する。

注意事項 周囲での火気、スパーク、高温物の使用を禁止する。静電気対策のため、装置等は接地し、電気機器類は防爆型（安全増型）のものとする。

安全取扱い注意事項

皮膚、粘膜、又は着衣に触れたり、目に入らないように適切な保護具を着用する。使用済みウエス、塗料かす等は廃棄するまで水につけておく。

保管：

適切な保管条件

- ・ 子供の手の届かない所に保管する。
- ・ 火気、熱源から遠ざけて保管。風通しの良いところに保管する。
- ・ 雨水や直射日光を避けるために防水シートで覆うこと。

安全な容器包装材料 石油缶など。移し替えてはならない。

8. ばく露防止及び保護措置

設備対策： 火気厳禁の処置をとる。屋内作業場での使用の場合は発生源の密閉化、または局所排気装置の設置を行う。取り扱い場所の近くに手洗い・洗眼装置を設け、その位置を表示する。

管理濃度及び許容濃度：

成 分	管理濃度	許容濃度	
		日本産業衛生学会(2005)	ACGIH(2005)
酢酸エチル	200ppm	200ppm	400ppm
酢酸ブチル	150ppm	100ppm	150ppm

保護具

呼吸器用の保護具 必要に応じて有機ガス用防毒マスクを使用。
 手の保護具 耐油性（不浸透性ゴム）手袋。
 目の保護具 側板付き普通眼鏡型又はゴーグル型保護眼鏡。
 皮膚及び身体の保護具 長袖保護衣、静電気防止作業衣、安全靴。

9. 物理的及び化学的性質

物理的状态

形状： 液体。
 色： 淡黄色透明。
 臭い： エステル臭。
 pH： データなし。

物理的状态が変化する特定の温度／温度範囲：

データなし。

沸点、初留点及び沸騰範囲：

酢酸エチル・酢酸ブチル 77.1～127℃

引火点： -2℃

爆発特性： 1.7～11.4vol%

蒸気圧： 酢酸エチル 12.6kPa(25℃)

酢酸ブチル 1.3kPa(20℃)

蒸気密度（空気＝1）：

酢酸エチル 3.0

酢酸ブチル 4.0

比重： 0.96／23℃

溶解性 水に対する溶解性 1mL/20mL 水(25℃) 酢酸エチル
 0.7g/100mL 水(20℃) 酢酸ブチル

オクタノール／水分配係数：

酢酸エチル log pow=0.73

酢酸ブチル log pow=1.82

自然発火温度：

酢酸ブチル 420℃

10. 安定性及び反応性

反応性： 開放状態では、空気中の湿気と徐々に反応し、表面より固化する。

化学的安定性： 窒素ガス等不活性ガスで置換された密栓容器内においては常温で比較的安定である。

避けるべき材料： 酸化剤、有機過酸化物、水分、アルコール、アミン類。

危険有害な分解生成物：

燃焼あるいは高温により一酸化炭素、窒素酸化物などの有害ガスを発生する。

11. 有害性情報

引火性液体： 引火点 -2℃ 酢酸エチル・酢酸ブチル：77.1～127℃

上記より混合物として区分2に分類される。

急性毒性（経口）： 酢酸エチル LD50(経口)ラット 5,000mg/kg以上

酢酸ブチル LD50(経口)ラット 14,130mg/kg

上記より混合物として区分外に分類される。

急性毒性（経皮）： 酢酸エチル LD50(経皮)ラット 18,000mg/kg以上

酢酸ブチル LD50(経皮)ラット 17,600mg/kg

上記より混合物として区分外に分類される。

急性毒性（吸入）： 酢酸エチル LC50(吸入)ラット 14,620ppm

酢酸ブチル LC50(吸入)ラット 2,000ppm

上記より混合物として区分外に分類される。

皮膚腐食性／刺激性： 酢酸エチル；区分外

酢酸ブチル；区分外

上記より混合物として区分外に分類される。

眼損傷／眼刺激性： 酢酸エチル；区分2B

酢酸ブチル；区分2B

上記より混合物として区分2Bに分類される。

皮膚感作性： データ不足のため分類できない。

呼吸器感作性： データ不足のため分類できない。

変異原性： データ不足のため分類できない。

発がん性： データ不足のため分類できない。

生殖毒性： データ不足のため分類できない。

特定標的臓器／全身毒性－単回暴露：

酢酸エチル；区分1（呼吸器系）、区分3（麻酔）

酢酸ブチル；区分1（中枢神経系）、区分2（肺）、区分3（呼吸器）

上記より混合物として区分1（呼吸器、中枢神経系）、区分3（麻酔作用）に分類される。

特定標的臓器／全身毒性－反復暴露：

データ不足のため分類できない。

吸引性呼吸器有害性：データ不足のため分類できない。

12. 環境影響情報

生態毒性：

水性環境有害性： 酢酸エチル EC50(48hrs) 甲殻類(ミジンコ) 164mg/L

酢酸ブチル LC50(48hrs) 甲殻類(ミジンコ) 32,000μg/L、

上記より混合物として水性環境有害性(急性)は区分外に分類される。

また、生分解性、蓄積性のデータより、水性環境有害性(長期間)は区分外に分類される。

残留性／分解性： 酢酸エチル 通商産業省の既存化学物質点検等において生分解性の良好なことが認められている。

酢酸ブチル 急速分解性がある（BODによる分解度＝98％）

生体蓄積性： 酢酸ブチル 生物蓄積性が低いと推定される。

移動性： データなし。

13. 廃棄上の注意

廃樹脂、容器等の廃棄物は、許可を受けた産業廃棄物処理業者と委託契約をして処理を委託する。

容器、機器装置等を洗浄した溶剤等は、地面や排水溝へ流さないこと。

焼却等により発生した廃棄物についても、廃棄物の処理及び清掃に関する法律及び関係する法律に従って処理を行うか、許可を受けた産業廃棄物処理業者と委託契約をして処理を委託すること。

14. 輸送上の注意

国連分類： クラス3：引火性液体類

国連番号： 1993

国内規制： 陸上輸送：消防法、労働安全衛生法、毒劇物法に該当する場合は、法令の輸送について定めるところに従う。

海上輸送：船舶安全法に定めるところに従う。

航空輸送：航空法に定めるところに従う。

輸送の特定の安全対策及び条件：

取り扱い及び保管上の注意の項の一般的注意に従う。

15. 適用法令

安衛法：表示対象物質 酢酸エチル

酢酸ブチル

安衛法：通知対象物質 酢酸エチル

酢酸ブチル

安衛法：有機則 第2種有機溶剤 酢酸エチル

酢酸ブチル

消防法	危険物第4類第1石油類（非水溶性、危険等級Ⅱ）
危険物船舶運送及び貯蔵規則	引火性液体類
毒物及び劇物取締法	イソホロンジイソシアネート (IPDI) *
	* 製造過程に由来する不純物のため、この製品は毒物に該当しません

16. その他の情報

主な引用文献

独立行政法人 製品評価技術基盤機構（N I T E）ホームページ G H S 分類結果データベース
原料メーカーのM S D S
日本塗料工業会編集 「原材料物質データベース」
国際化学物質安全カード（I C S C）
製品安全データシートの作成指針（改訂版）日本規格協会（2001年10月）
日本工業規格 J I S Z 7253 : 2012 G H S に基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法
危険物船舶運送及び貯蔵規則 14訂版 海文堂

- (1) このデータシートは、製品に関する情報提供を目的としたものであって、その記載内容に関し、弊社が売主その他の立場で保証責任を負うものではありません。
- (2) このデータシートは、作成日又は改訂日までに弊社が入手した情報に基づいて作成しておりますが、記載内容は新しい知見又は法規制の変更等により改訂されることがあります。
- (3) このデータシートは通常想定される保管方法および取扱い方法の範囲における情報提供です。したがって、特殊な保管又は取扱いを行う場合は、その保管又は取り扱いに適した安全対策を実施の上ご利用下さい。
- (4) 本製品の貴社の用途に対する法規制、適合性及び安全性については、弊社では確認しておりませんので、調査又は試験により確認の上ご使用下さい。
- (5) 貴社において本製品を輸出される場合には、外国為替及び外国貿易法等輸出関連法規を遵守の上、輸出してください。